

戎光祥近代史論集 3

東都から帝都へ

# 江戸東京移行期論

近世における江戸と近代における東京はともに、政治的にも経済的にも中心となる都市であった。本書はこれら江戸・東京と周辺地域に着目し、その成立と発展の様子を史料から具体的に明らかにする。

▶江戸から東京において何が変化し、何が変わらなかったのかを、気鋭の研究者たちがテーマごとに検討していく！

## 第1部 江戸東京論の視角

- I 「江戸東京学」の新たな視座 大石学
- II 江戸から東京へ——研究の流れと本書の課題 落合功

## 第2部 江戸東京周辺域構造

- I 徳川家康の御成と由緒・遺物——「江戸周辺論」によせて 大石学
- II 「江戸町続」地域の形成過程と江戸・東京——『江戸周辺の社会史』をきっかけとして 行田健晃・篠原杏奈
- III 将軍御成と視覚的支配——寛政期遠御成をめぐる視線の分析から 山崎久登
- IV 近世後期における江戸周辺地域の家作利用と生業 宮坂新
- V 幕末期、江戸近郊農村における造醤油業と江戸問屋仲間 落合功
- VI 江戸上水から改良水道、そして大東京水道へ 松本洋幸

## 第3部 江戸から東京への移行と変容

- I 明治初期東京の公共負担 松本剣志郎
- II 幕末維新期の江戸・東京における名主の社会的位置 高山慶子
- III 山王祭・神田祭をめぐる構造的変化と意義 滝口正哉
- IV 近代移行期における江戸城郭——河岸地政策の影響と「外濠空間」の変容 高道昌志
- V 明治十年代東京における区会議員選挙と地域——「部」を切り口にして 櫻井良樹



大石学・落合功 編  
 A 5 判 / 並製 / 386 頁  
 本体価格：5800 円 + 税  
 4 月上旬刊行  
 ジャンル 人文書、日本史

ご注文はコチラまで FAX 03-5275-3365

注文書	帳合・貴書店名印	フリー入帖
	冊	江戸東京移行期論 大石学 編 落合功
		ISBN 978-4-86403-503-3 5,800 円 (本体)